

2018年度予算の中身

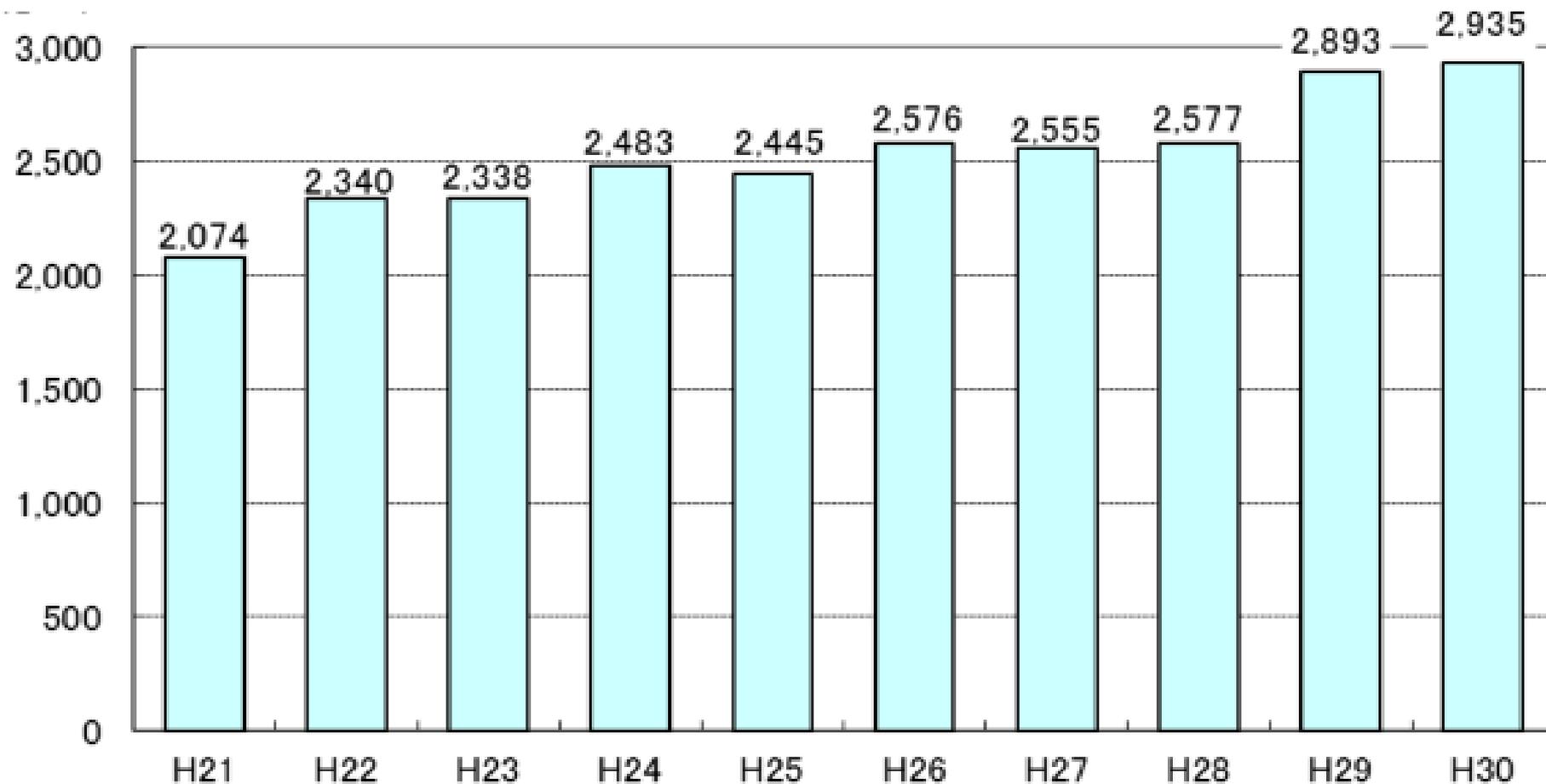
第35回 のもとよしみ議会報告会



2018年5月13日

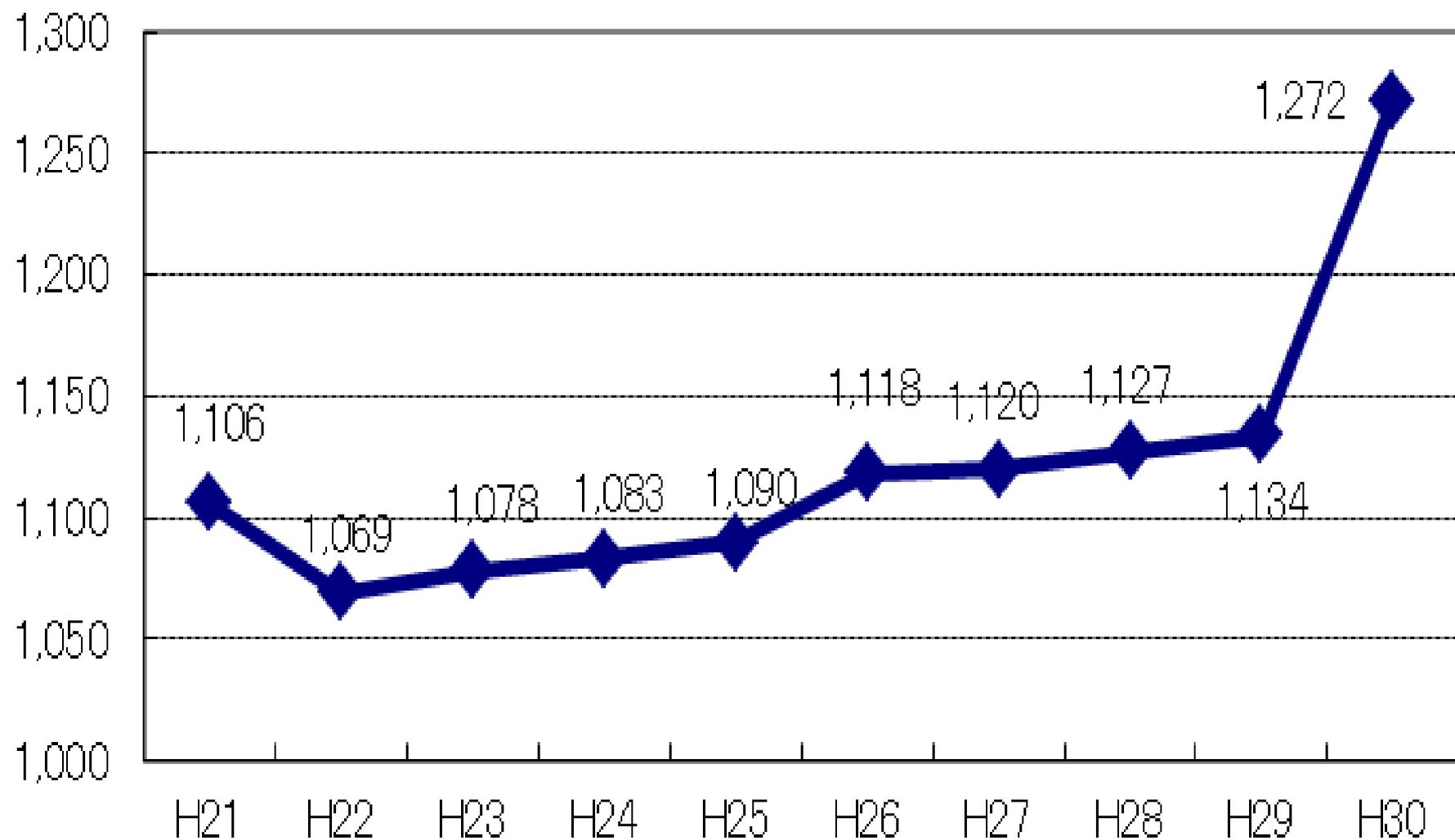
予算規模の推移

(億円)

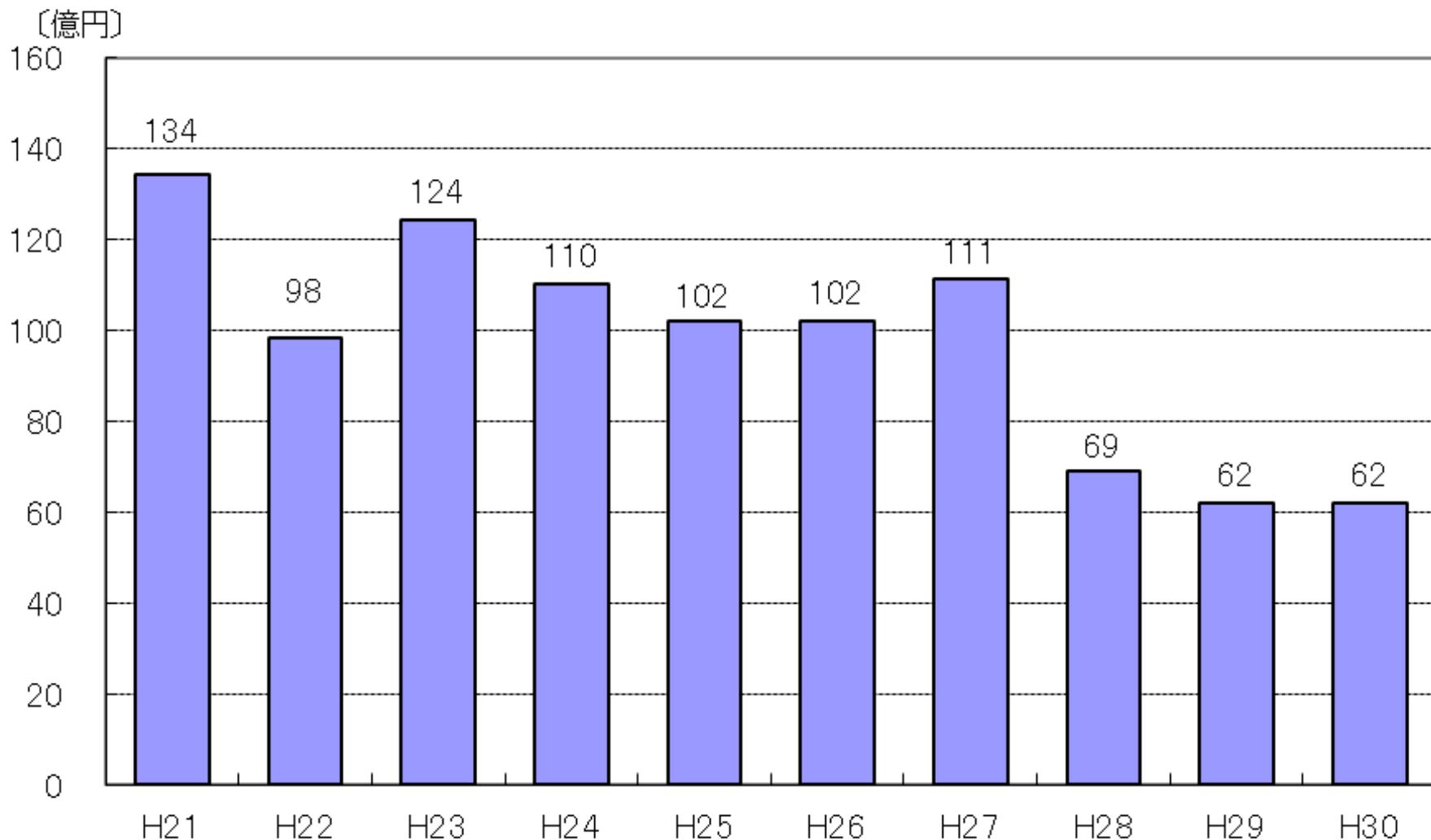


[億円]

市税収入の推移



財政調整基金残高の推移



※28年度までは決算額、29年度・30年度は決算見込み額

2018年度予算の特徴



★予算規模は過去最大

★市税は138億円の増

125億は教職員の給与分 県から市へ

13億(個人市民税:約6億 法人市民税:約5億)

★地方交付税は23億円の増 (99億→122億)

★財政調整基金(貯金)は、29年度末を維持

昨年度より良くなったように見えますが……

2017年度と比べると

支出となる義務的経費のうち

扶助費(福祉)は40億円の増加

公債費(ローンの返済)は5億円の増加

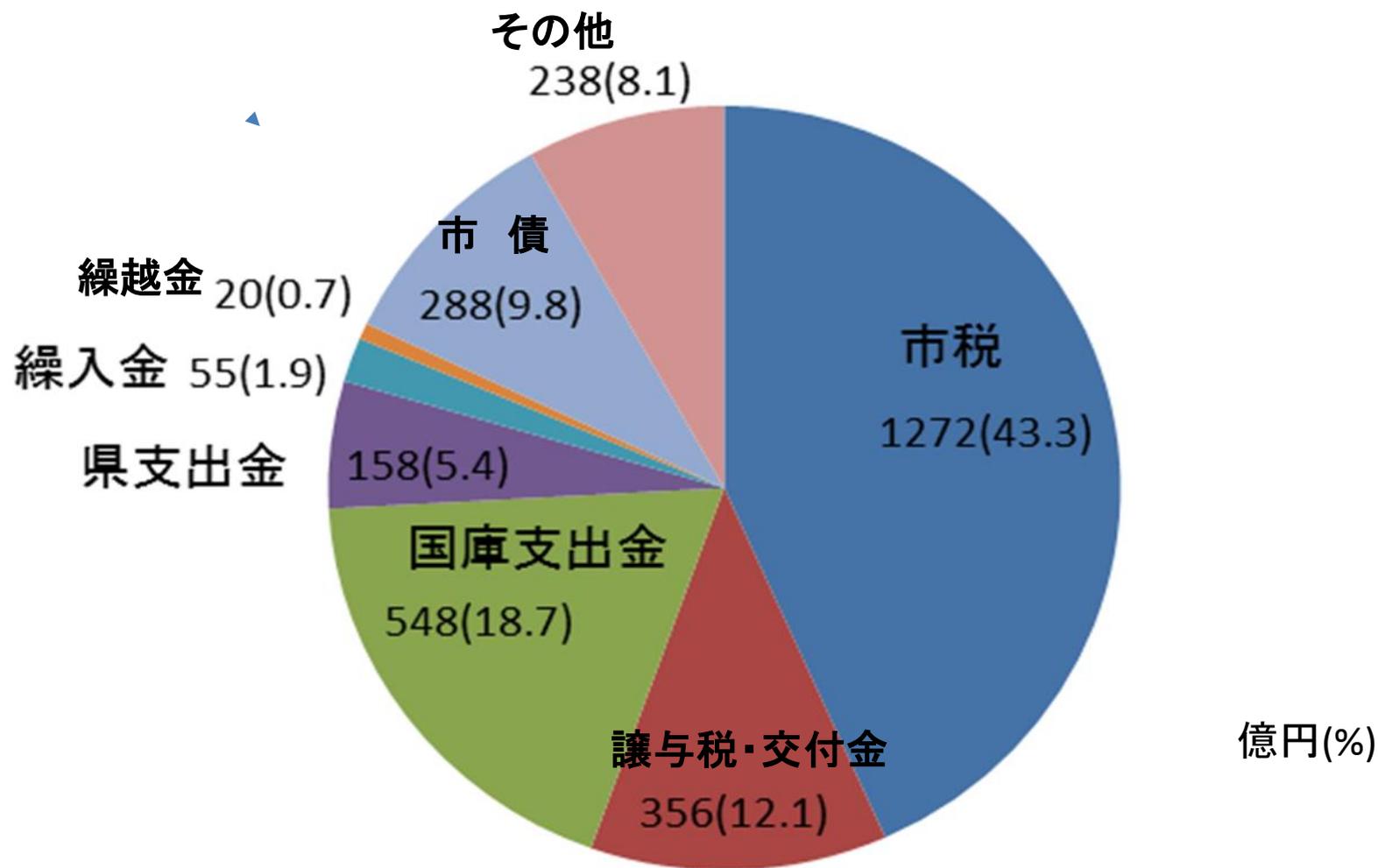
収入の市税は13億円の増加にとどまります。

$$40 + 5 = 45 > 13$$

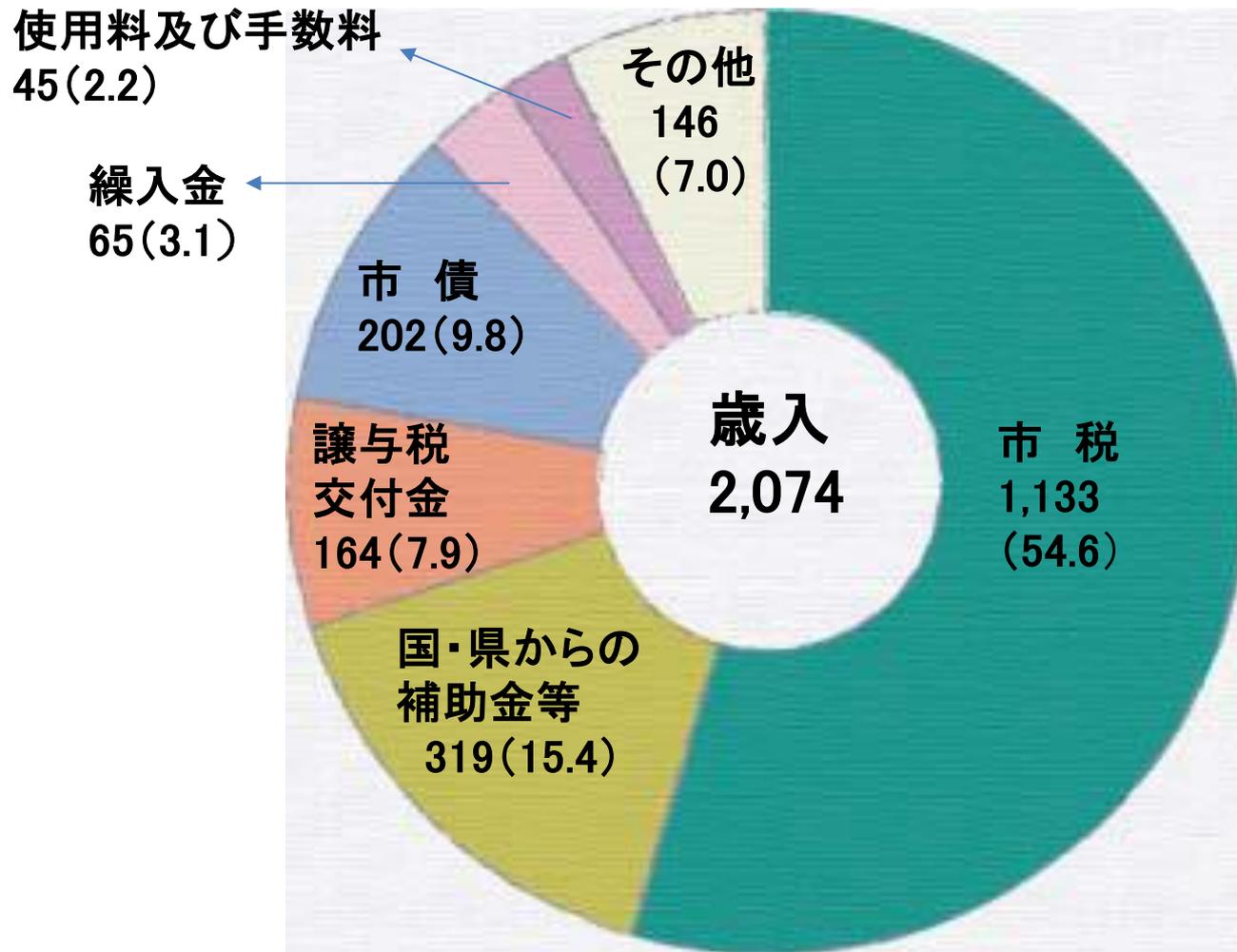
31年度以降はさらなる収支不足が見込まれています。



2018年度予算(歳入) 2935億円



2009年度予算(歳入)



億円(%)

歳入構成比の推移

市税

譲与税・交付金

国・県支出金

市債

その他

0%

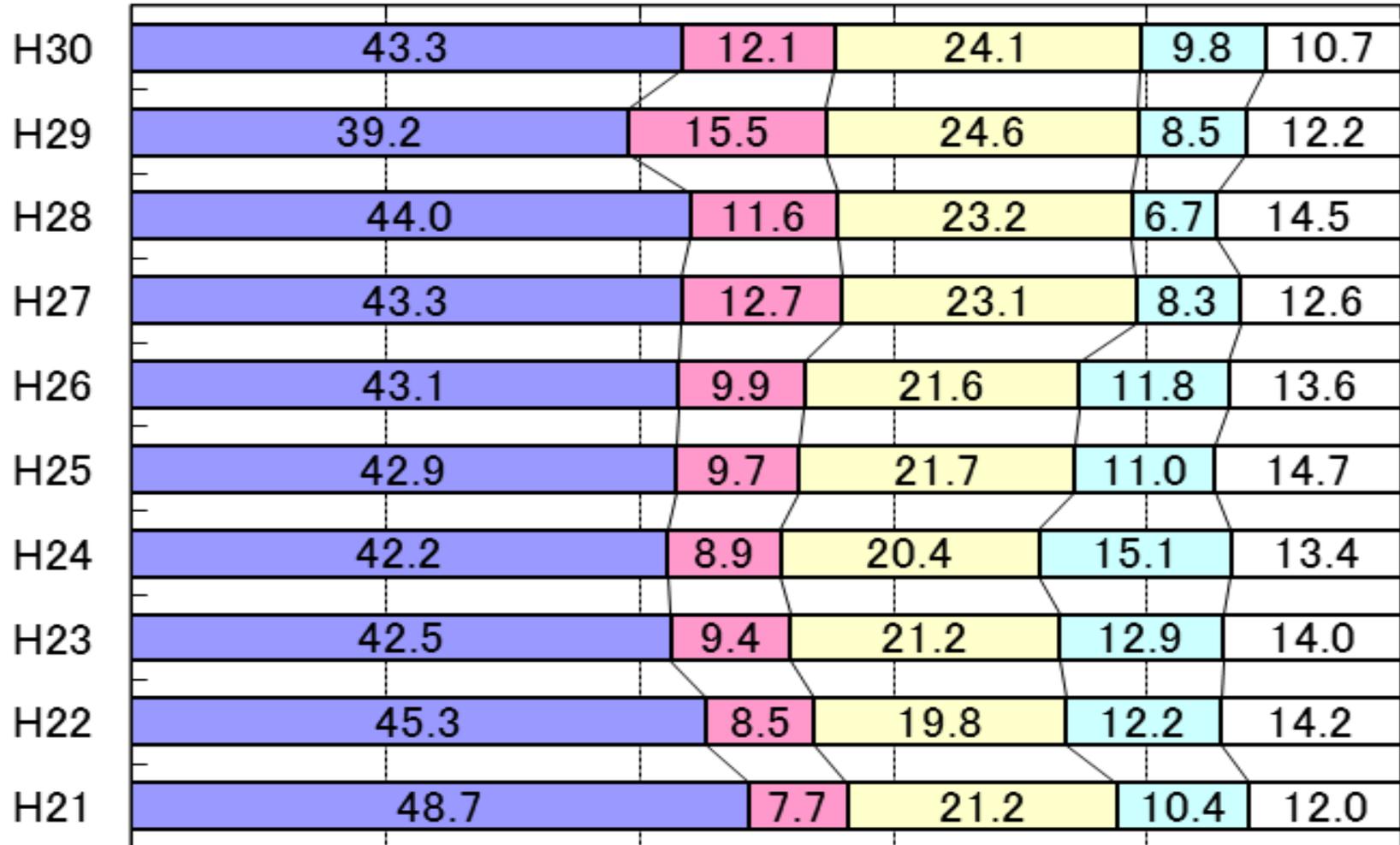
20%

40%

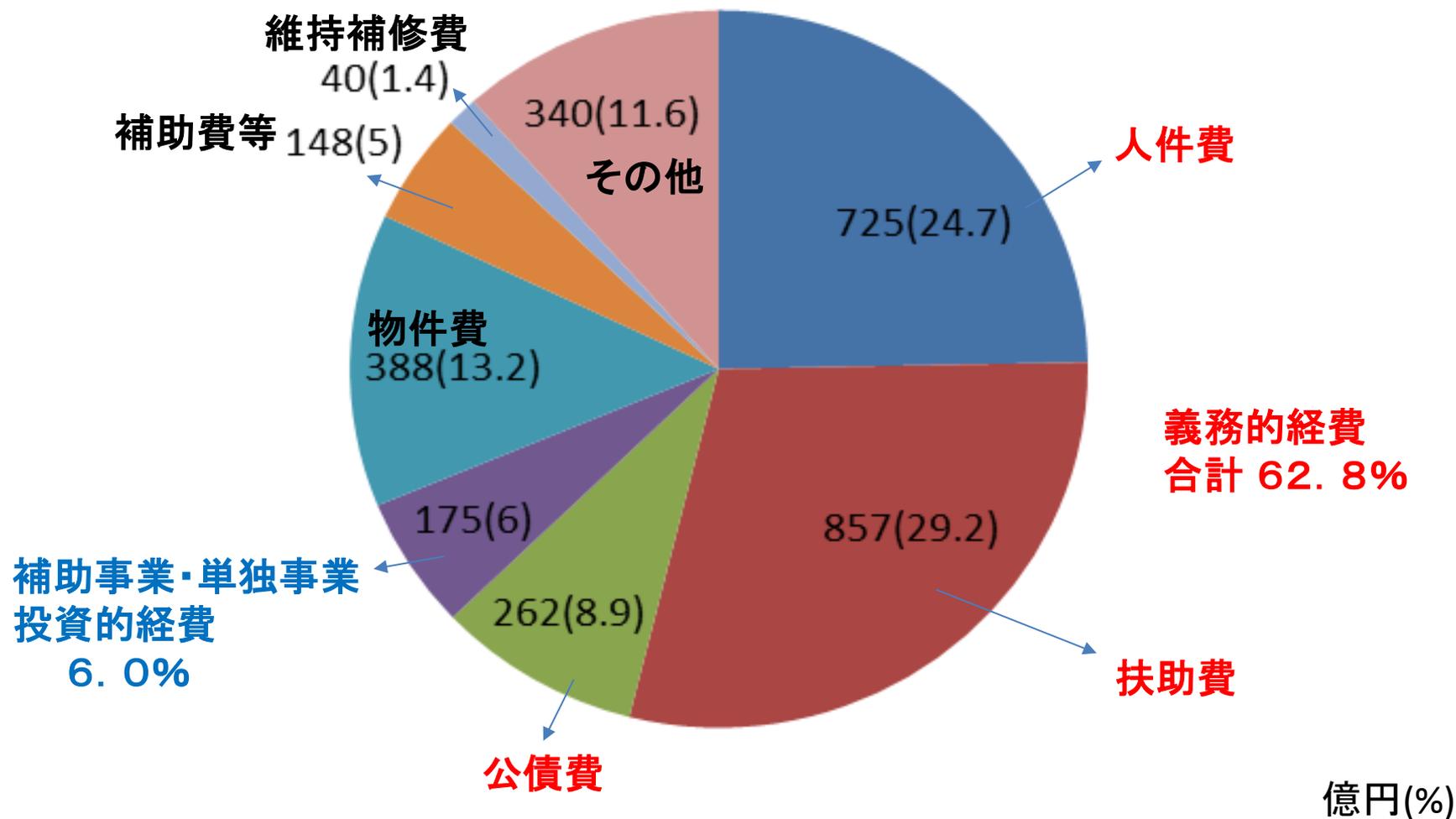
60%

80%

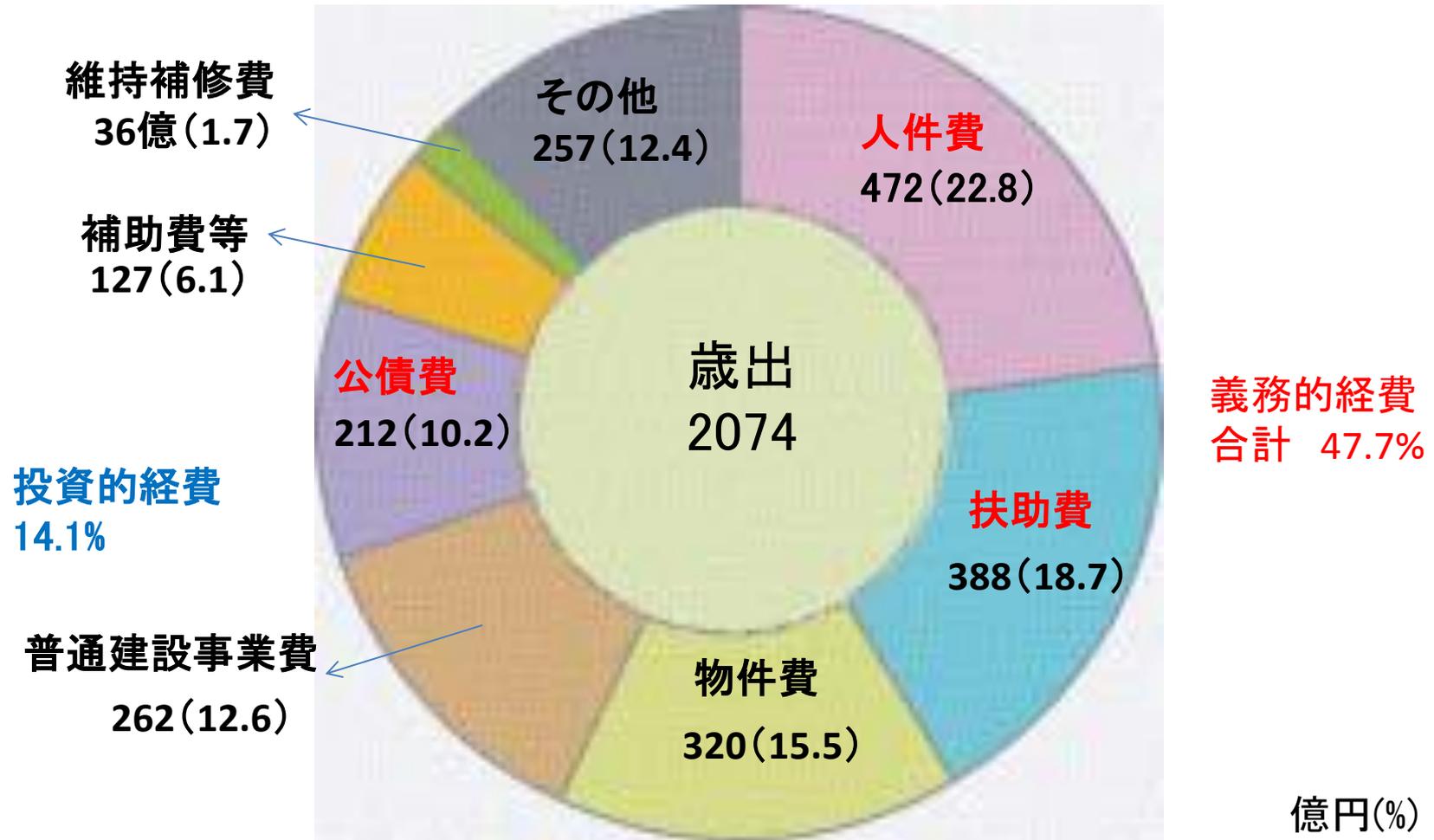
100%



2018年度予算(歳出) 2935億円



2009年度予算(歳出)



性質別歳出構成の推移

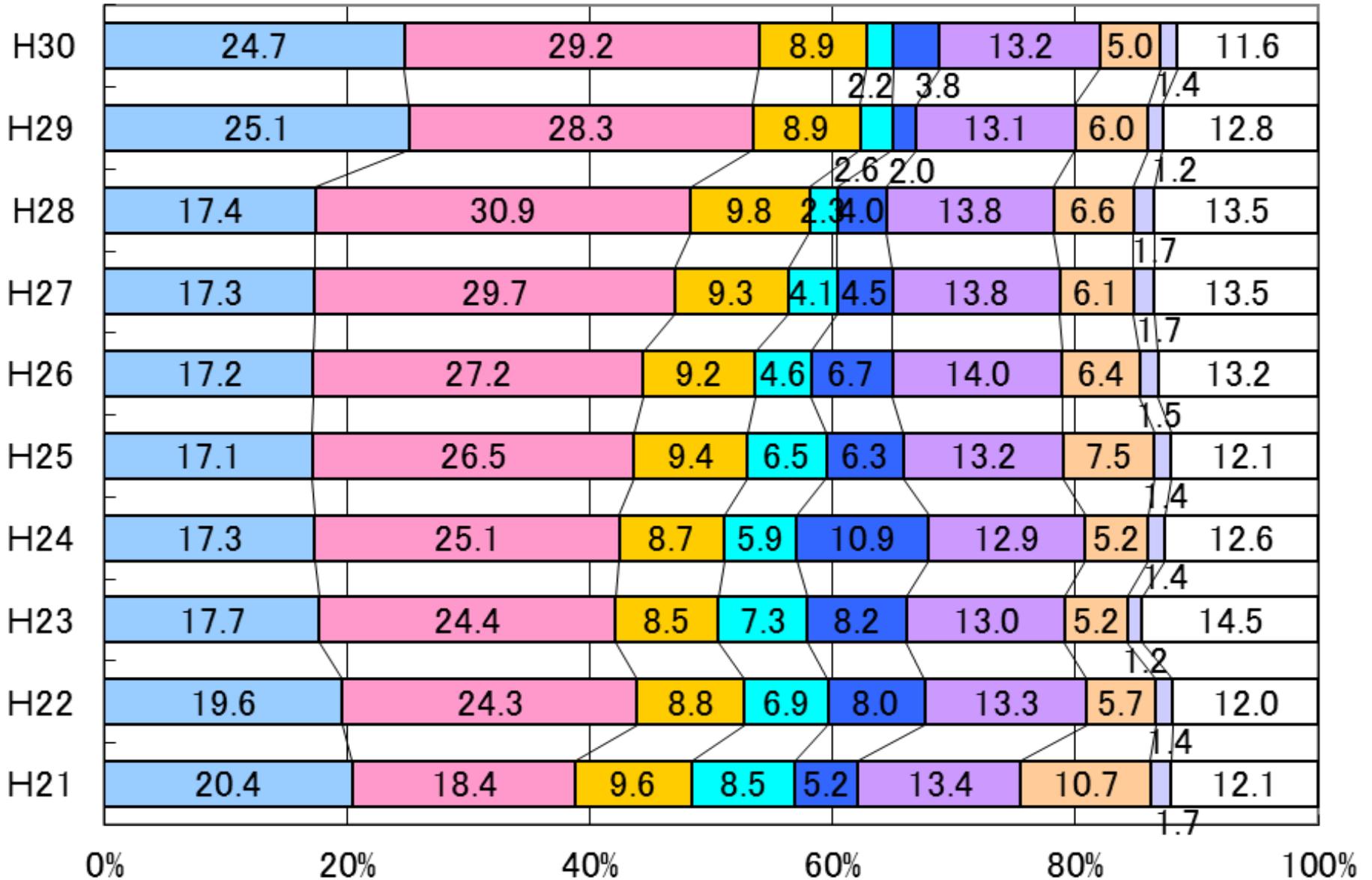
人件費

扶助費

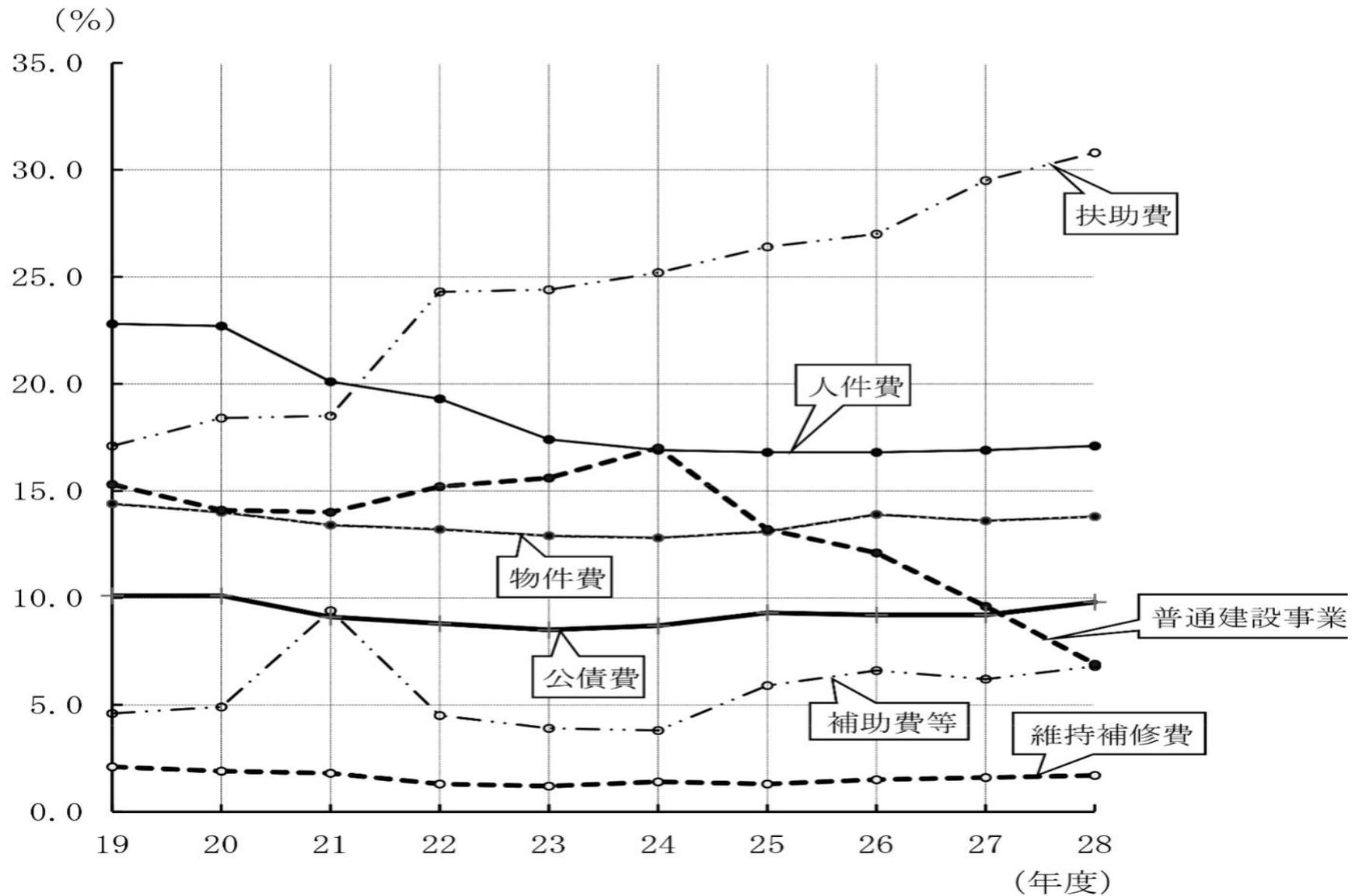
公債費 補助 単独

物件費

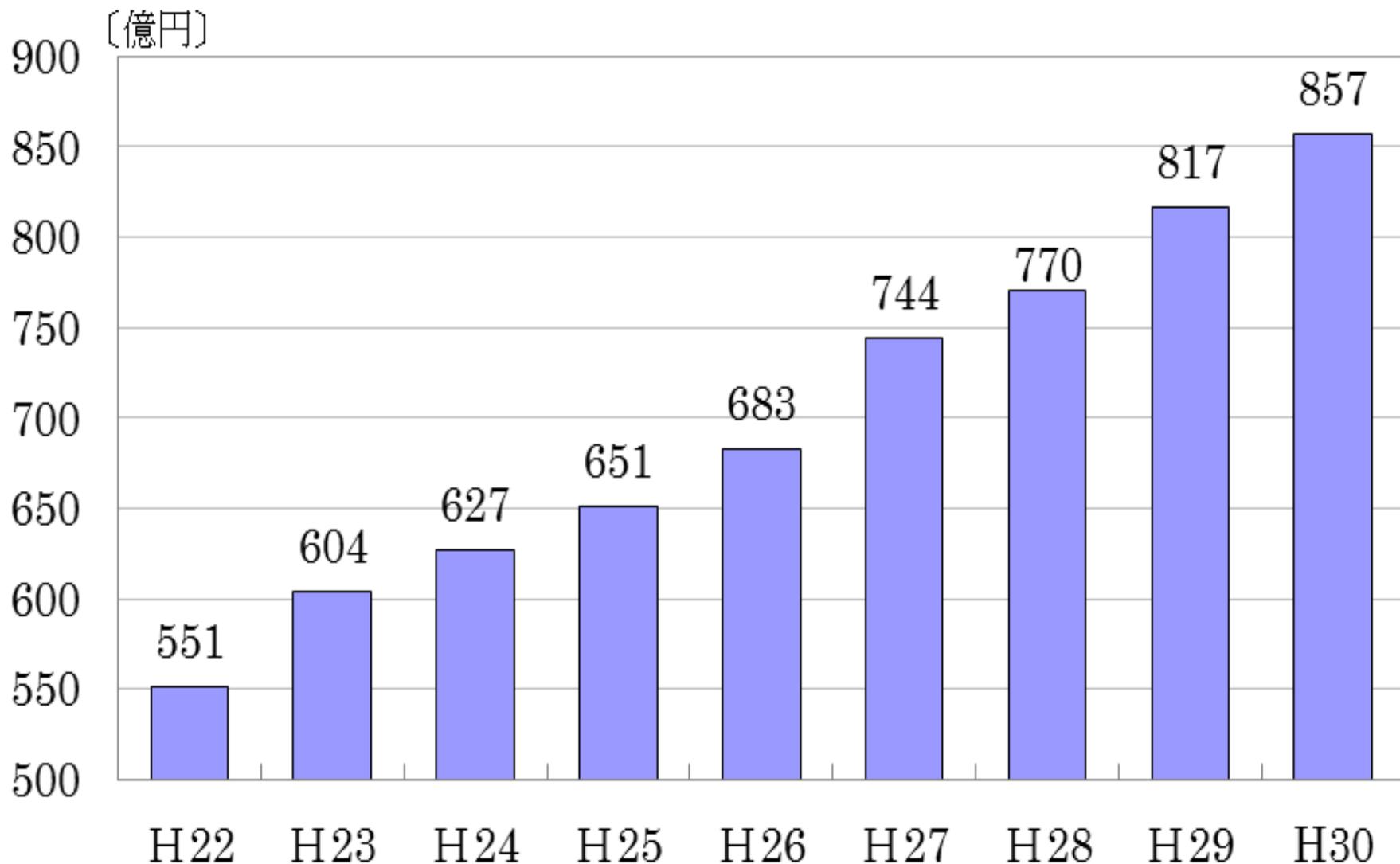
補助費等



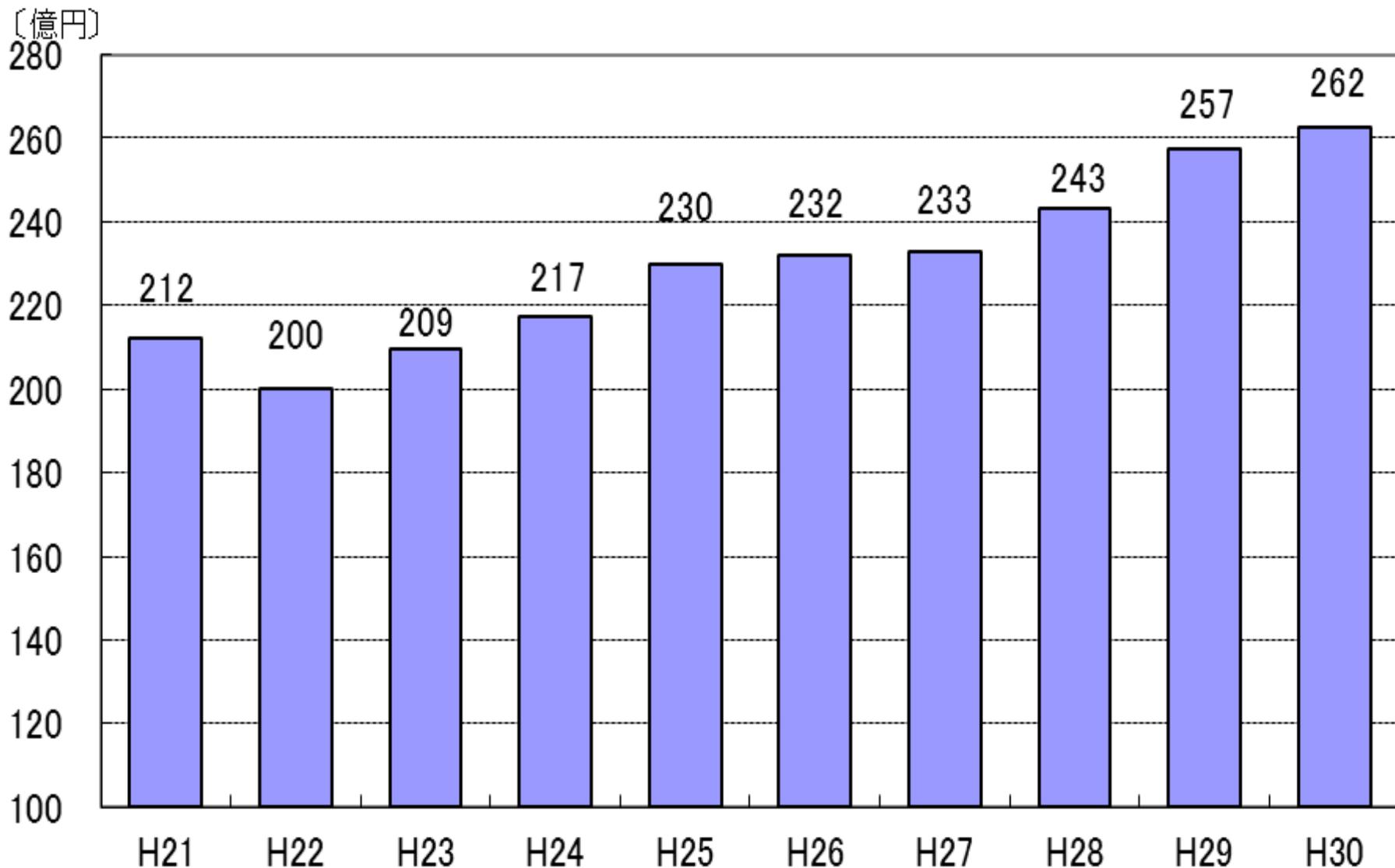
歳出構成(性質別)の推移



扶助費の推移

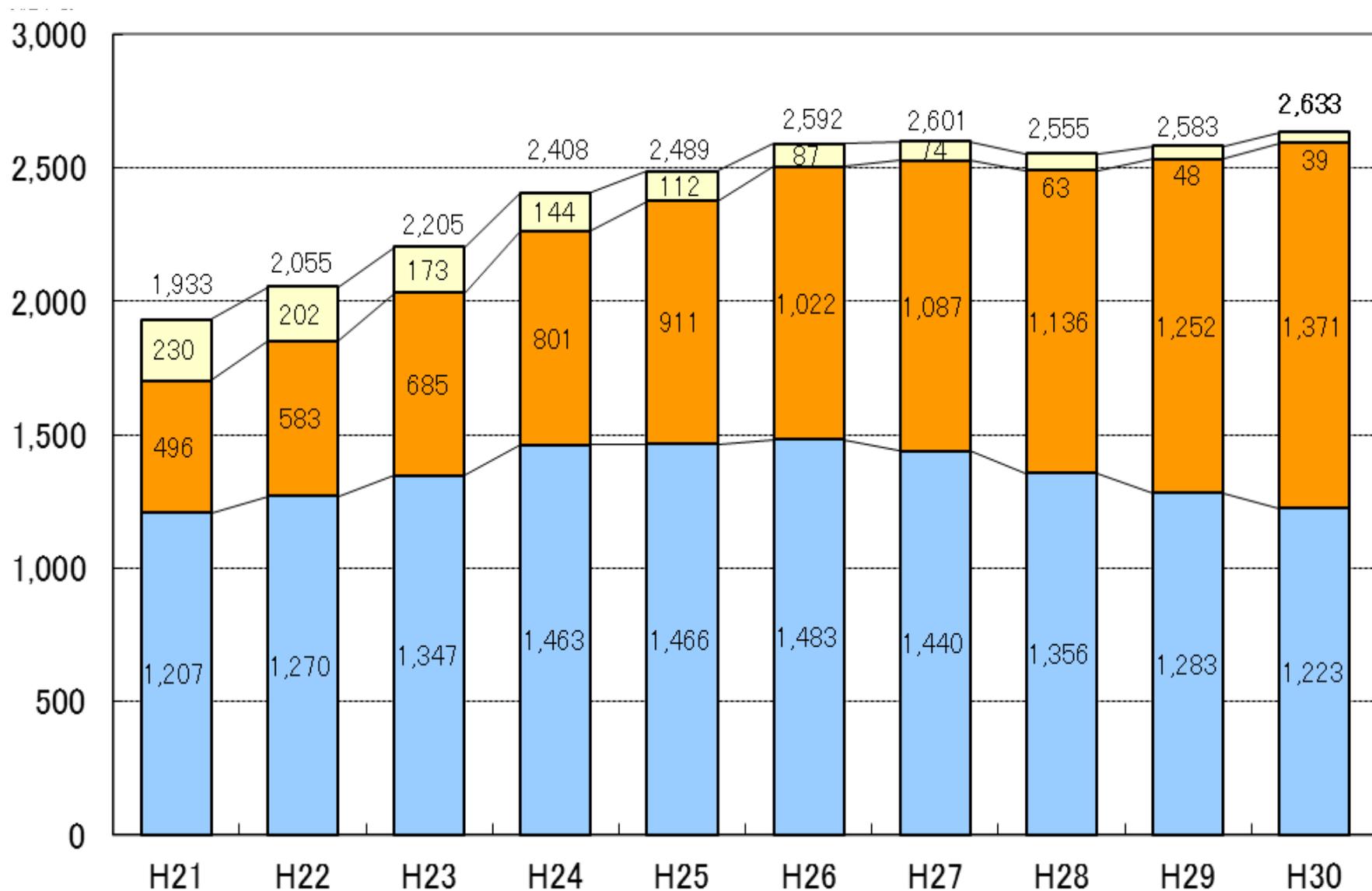


公債費(ローンの返済)の推移

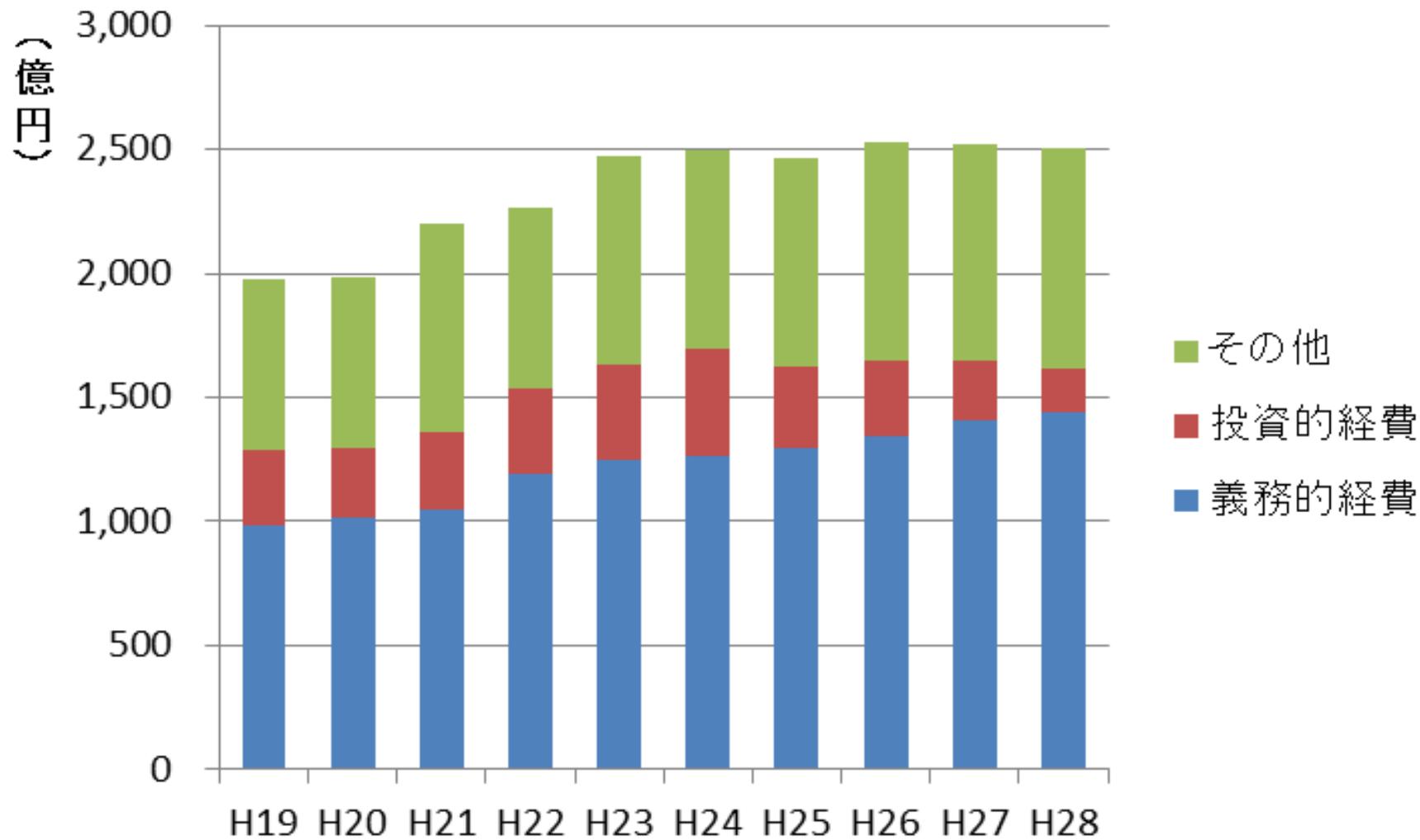


市債残高の推移

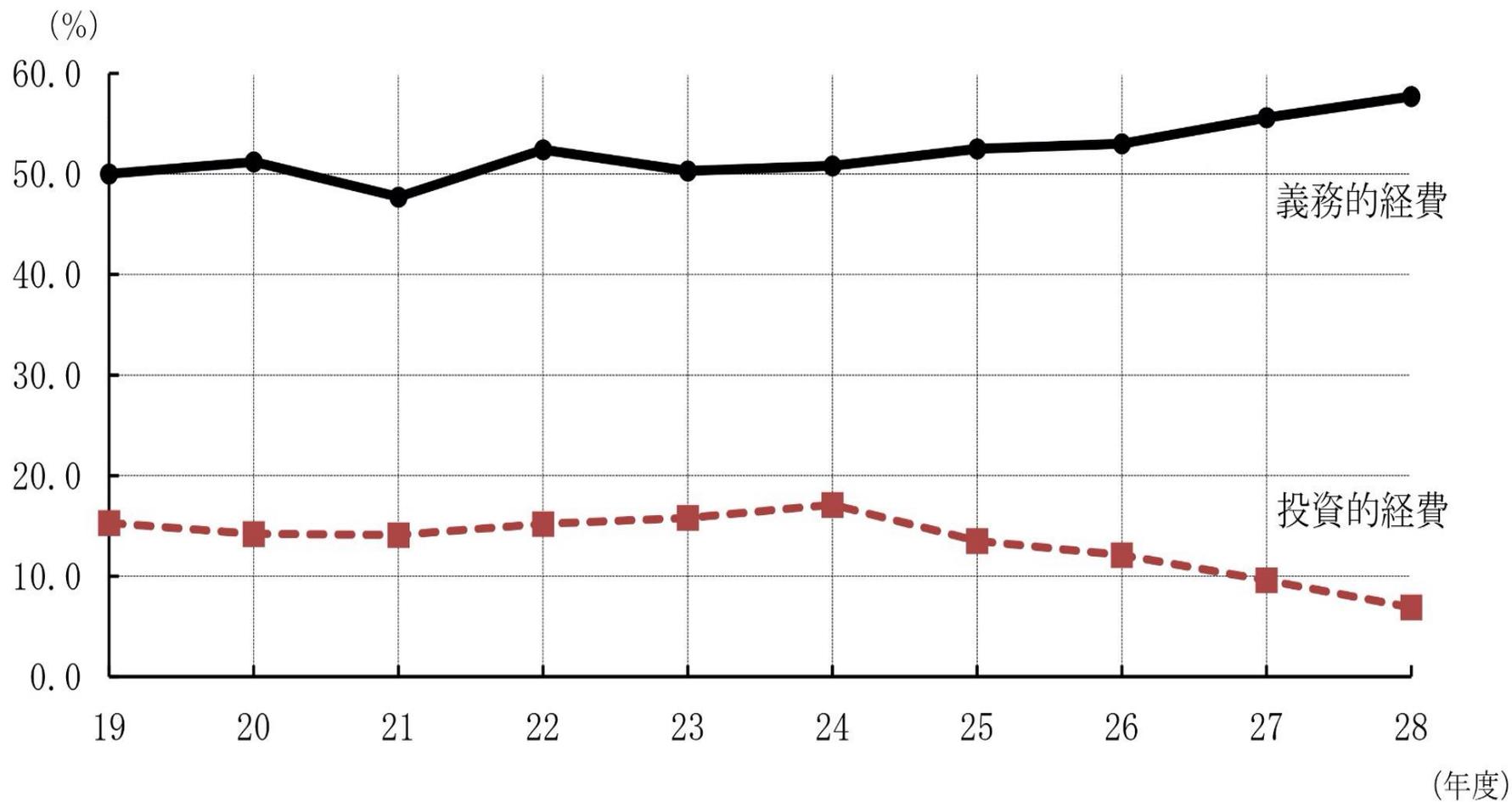
建設債 臨時財政対策債 その他



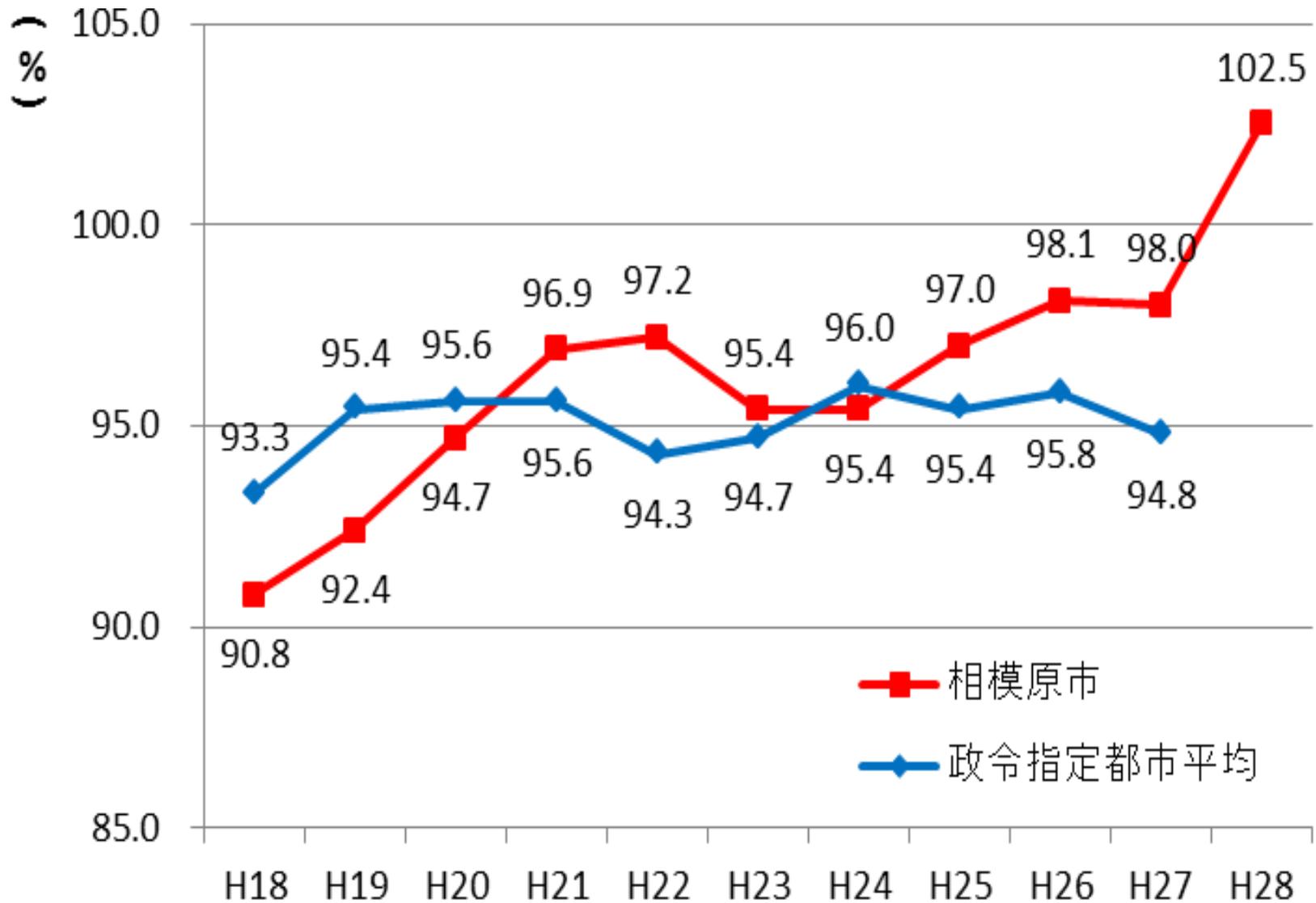
義務的経費と投資的経費の推移



義務的経費と投資的経費

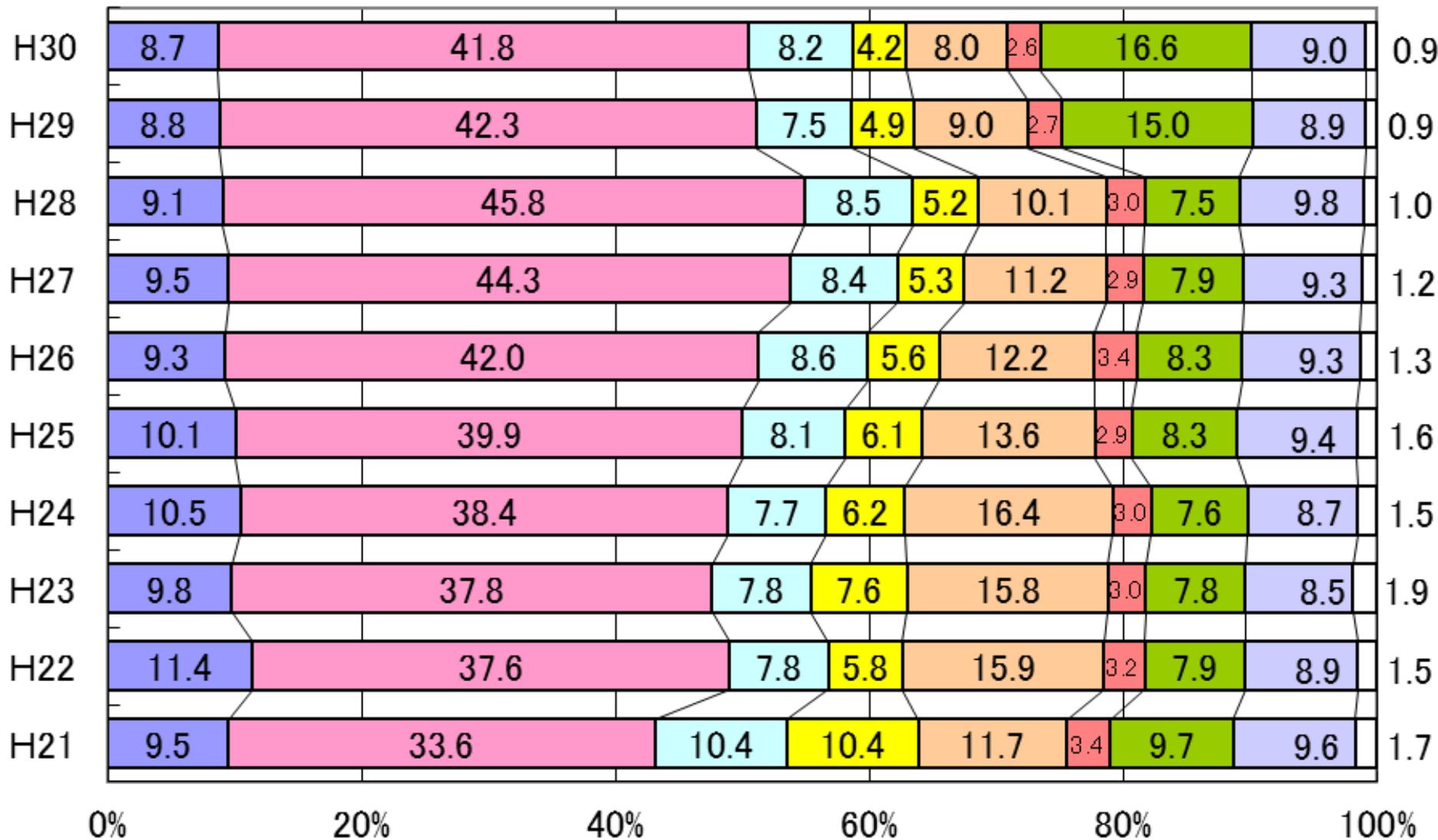


経常収支比率の推移

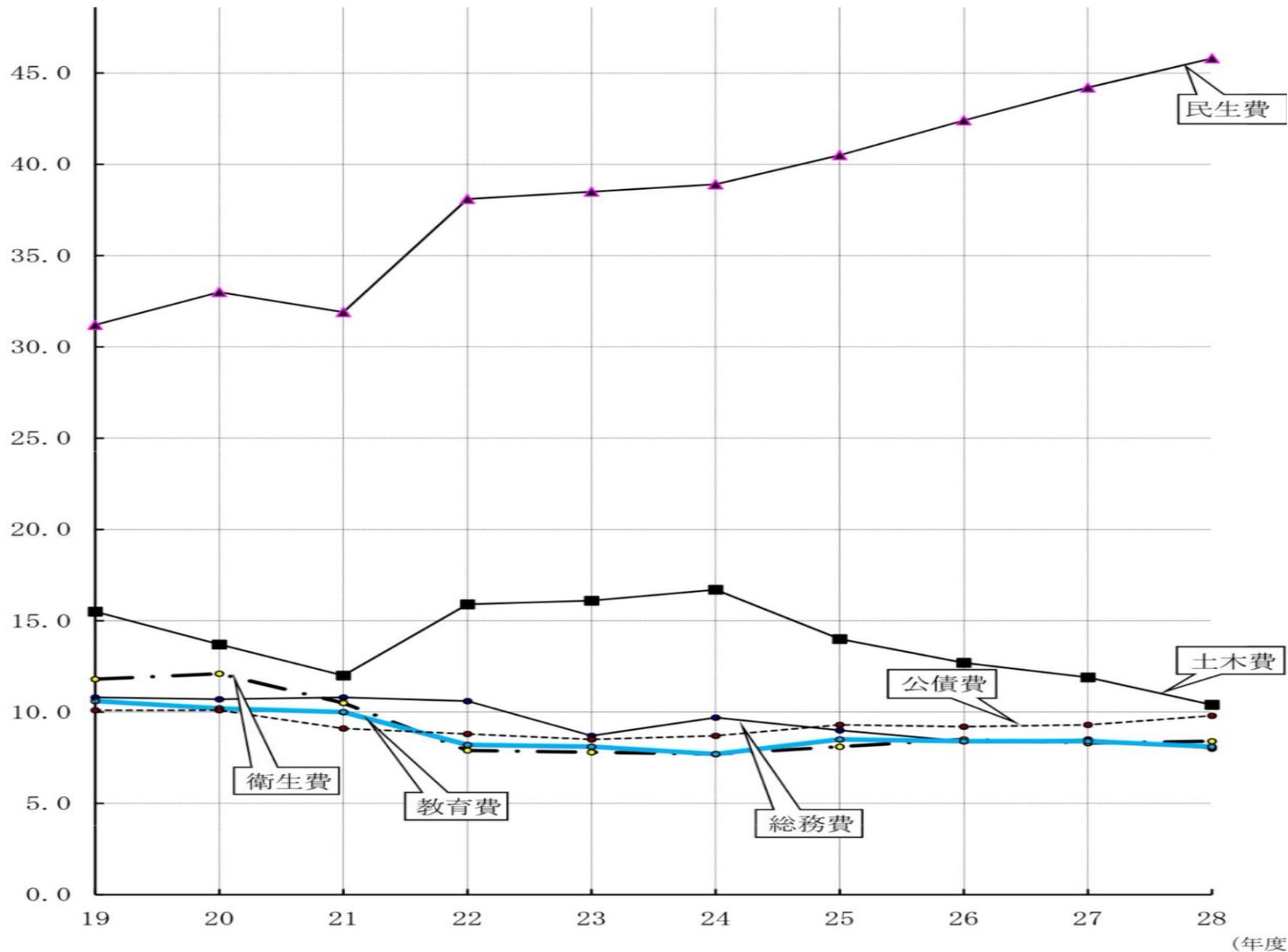


歳出構成比の推移

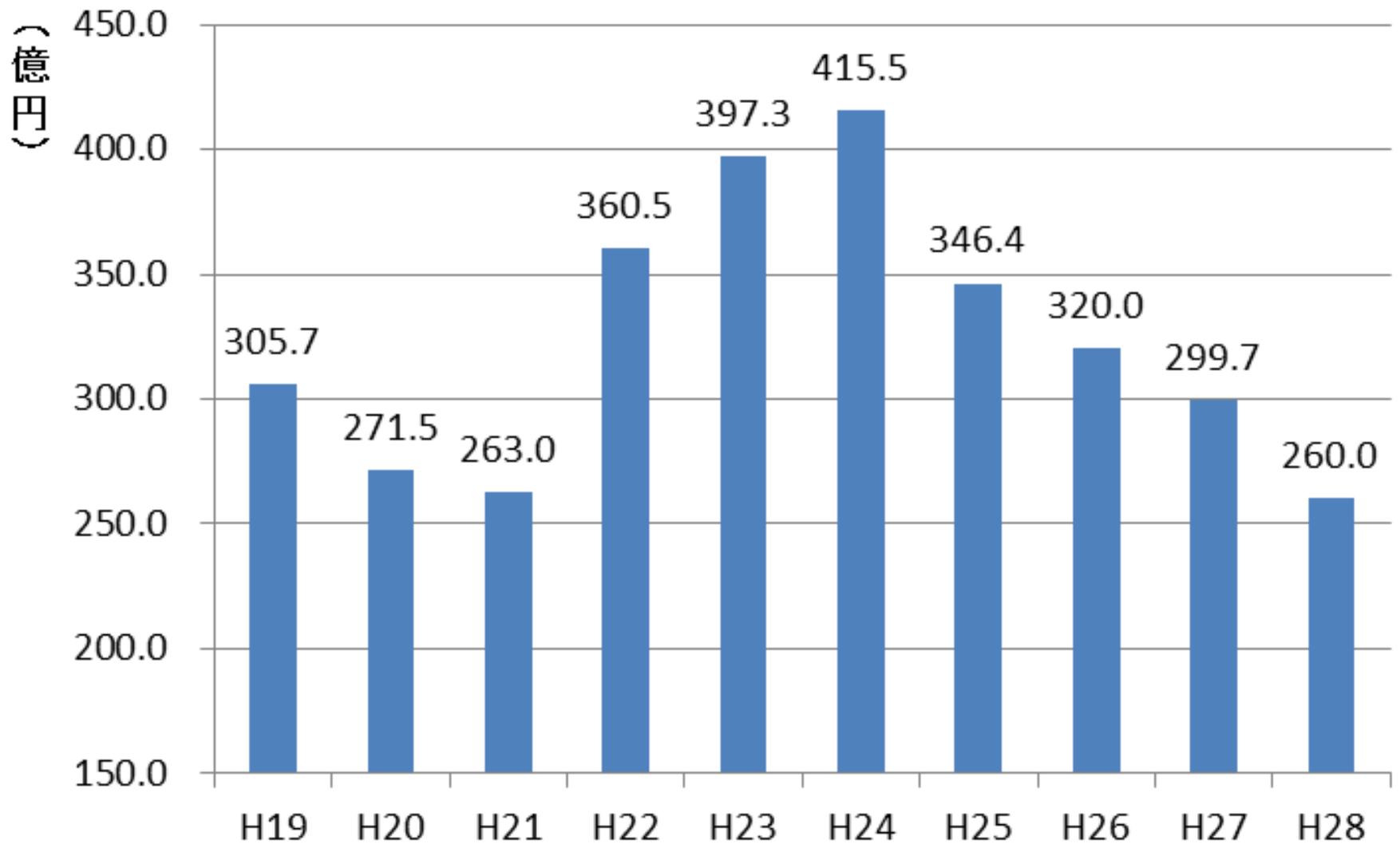
総務費 民生費 衛生費 商工費 土木費 消防費 教育費 公債費 その他



歳出構成(目的別)の推移



土木費の推移



大規模事業について政治決断はなし

☆美術館整備に向けた取組	5,251 万円
○橋本駅周辺地区のまちづくりの推進	5,000 万円
○リニア中央新幹線の建設促進	3億3,017 万円
○相模原駅周辺地区のまちづくりの推進	2,195 万円
○当麻地区整備促進事業	3億4,039 万円
○麻溝台・新磯野地区整備事業	26億1,177 万円
○小田急多摩線の延伸に向けた取組	1,022 万円
○幹線快速バスシステムの導入の取組	1,958 万円
	etc.

颯爽の会は予算に反対

主な理由

- ①大規模事業の取捨選択がなかったこと
- ②事業と扶助費の見直しの過程を市民にオープンにしなかったこと
- ③予算編成の過程が透明化されないこと
- ④国民健康保険税の急激な値上げ
- ⑤公民館が有料化されること

高齢者の急増、少子化、人口減少は避けられません。
お財布は一つです。限られた予算をどう使えば、
明るく安心な未来が拓けるのでしょうか？



私が提案していること

- ◎予算編成過程の見える化と市民意見の反映
- ◎大規模事業の選択と集中
- ◎公共施設マネジメントの推進
(地域住民が公共施設のあり方を考える)
- ◎日常生活圏域を核にした福祉の推進
(高齢者、障害者、子育て、生活困窮、虐待防止、孤食・孤立化対策……)
- ◎日常生活圏域ごとにある公民館の有効活用

